

三位一体の主日

マタイ 28・16-20

2018.5.27

高円寺教会 18:30 ミサ

クラレチアン宣教会 梅崎 うめざき たかいち 隆一神父

「この世のものを父と呼んではならない。父は天の父お一人だけだ」という言葉を子どもの時に聴いたとき混乱いたしました。「わたしのお父さんは梅崎進という人だから、神様がお父さんと言われても困ります」と。日本だけでなくアジアの国々では、血がつながっているのが家族だ、という考え方をします。ですから、そこから考えますと、神様と血もつながってないし、神様は人間ではありませんし、わたしたちを超えて偉大な方だから、わたしたちから隔絶したところにおられる方を父だといきなりいわれてもなあ…とっていました。

やがてわたしが大きくなり、父と母は結婚25周年の当日に大げんかをしました。そのときの言葉は「子どもは血がつながってるけど、伴侶であるお互いは血がつながってない」と、お互いに言い合ってたのを聞いてショックを受けました。日本の社会において「赤の他人」ということばは関係を断絶する冷たい言葉なのですから。しかし、よくよく考えてみれば、父と母はお互い同士は血がつながってないけれども家族だと考えたら、血のつながりはそんなにたいしたことではないと考えるようになりました。血がつながっているかどうかよりも、相手を自分のように大切にしているかどうか、家族になるための大切な要素だと思う要になりました。

イエスはこうも言いました。「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」、父のみ旨を行うこと、それによって私の母、兄弟姉妹となるのだと言われます。ですから母マリアは、イエスと血がつながっているから偉い人という考え方ではなく、父の御旨を行ってるからわたしの母なのだと言われました。血がつながっていても、父の御旨を行わないなら本当の家族にはなれないということを、聖書は言いたいのではないのでしょうか。血がつながっていても、家のお金を持ち出してギャンブルにつき込んだり、家族の中にいじめがあったりするなら、本当の家族とは言えません。

ガラテア書には「霊の結ぶ実¹は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制」と書かれています。またゆるしや信頼なども、霊の結ぶ実

であると考えてよい。だから、家族の間に温かさがあるなら、神様をこの世に示すことができますが、そのような実りがないのであれば、わたしたちは神様を示すことはできません。

わたしたちは今日、三位一体のお祝いをしています。わたしたちは聖霊によって神である父の子どもにしてもらいます。そして聖霊によって父の御旨を行ったときに、わたしたちは血はつながってないけれども天の父の家族であり、姉妹であり、また、母であり、兄弟であることを示すことができます。こうして、このミサに与っているわたしたち、また高円寺教会の一人ひとりが、父を中心とした本当の家族であることを実現することになります。

ミサののち、わたしたちは出かけて行って、父と子と聖霊を示す者となります。わたしたち教会共同体が、血のつながりではなく、父の御旨を行うことで、人類が人種や国境を超えて一つの大きな家族であることを証することができますよう、共に祈りましょう。